

第7回 湖西市職住近接・未来ビジョンアドバイザーボード 会議議事録

開催日時：令和5年7月10日（月）15時00分～16時30分

会場：湖西市役所 市長公室（オンライン併用）

テーマ：湖西市の「子育て」を考える

発言者	発言内容
大倉委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この35年の間に、子育て世帯は半減している。5人に1人程度。赤ちゃんを見たり、世話したりした経験がない中で子育てをしている。 ・産後うつは、コロナ禍で3人に1人の割合にまで増加。核家族化で逃げ場のない父親・母親は自分を責める傾向にある。産後に「辛い」、「助けて」と言いやすい地域とのつながりが必要となる。また、性的役割分担意識の改革や経済的な給付も必要。 ・子育てをきっかけに地方への移住に関心を持っている子育て世代もいる。 ・湖西市の出生数(日本人のみ)は、21年間で半減している。 ・湖西市の子育て施策は、整備・体制が整えられ、支援も手厚くなっている。 ・あるのに知られていないサービスがある。今あるサービスを周知するため、利用者・登録者のトレースをした方が良い。 ・保育園の入園希望者の情報を早期に把握し、共有する。 ・サービスは、事前登録というより全員が使える前提の方が良い。 ・専門家の領域と支援者の領域を分けて、様々な人々と連携し拡充をはかってはどうか。また、支援者を増やすだけでなく、支援者同士をつなぐネットワークがあると良い。 ・父親も10人に1人うつになる時代であり、支援が必要。 ・第2・3子妊娠・出産時はまた別の課題・不安があるので、希望者には第1子時と同様に支援を利用できると良い。 ・現状子育てひろばは車移動ができる前提の施設。学区に1つ程度に増やすか、移動手段ができると良い。 ・人口6万人弱の湖西市だからできることがある。どれだけお金があっても足りない現状は理解できるので、人つながりの社会資源を増やしてはどうか。
岩間委員	<ul style="list-style-type: none"> ・母親としても、働く女性としても共感できる内容。 ・共働きが増える中、女性が家事も育児もやるには限界がある。男性の歩み寄りが大事。母親も父親も最初からベテランではない。同じスタートラインから育児に関わり、経験値を増やしていくサポートがあると安心。 ・核家族の中で孤独な育児は皆が抱える問題。第三者の関わりが大事。 ・第2子出産時は第1子を保育園に預けられないルールであったため、1人目より大変な状況であった。そのような経験について、たくさんの方が声を上げて行政に伝えて、政策に結び付けてもらうのが大切。

<p>野村委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て情報にアクセスできる共働き世帯には、知らせることをメインにする。 ・「子育てが大変」と言い過ぎると、嫌な事をさせられるイメージがつくので、湖西市の子育てにはメリットがあると思ってもらえるように地道に発信を続けた方が良い。 ・常葉の柴田先生が浜松市の児相職員の時に行った中学生の赤ちゃん体験は、赤ちゃんを集めることから中学生が行うことで、地域とのつながりができ、お母さんにも孤立を感じさせない良い企画である。 ・虐待事件の経験から菰野町では、妊娠期から切れ目のない支援を行っている。母子手帳取得時に膨大なヒアリングシートを使って面談を行い、少しでも不安が残る妊婦とはつながり続ける。市役所と関わろうとしない人たちは捕まえに行く気持ちがないと事件は防げない。 ・熊本県は、妊娠葛藤相談を設けて、出産後0日の死亡を減らす取組をしている。 ・福井では、権限のある保健師が、リスクの高い人を継続的に訪問している。ハイリスクの人には押しかけのサービスが求められる。
<p>土居委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・岸田内閣がこども誰でも通園制度を立ち上げる話が出ている。働いていなくても預けられるのは喜ばしいが、保育士等の体制整備が難しい。湖西市としても、どれくらいのニーズと受け皿があるのかまず考えなければならない。 ・休職中の親も預けたい時があるというニーズをくみ取ることが、産後うつ解決のポイントになるのではないか。 ・介護保険と比較すると、介護ではあるのに保育ではない部分がある。 ・介護サービスはケアマネを通さないと受けられないが、保育は違う。ケアマネのように困った時に相談できる存在が、保健師以外で必要。 ・高齢者が介護保険サービスを受ける際のスムーズさが、子育て・保育支援にはない。 ・介護保険は国と市町村の役割が明確。国に要望する際は、全国画一的にやること、不足する部分を訴える。 ・地域ごとにニーズは異なるので、国と市町村の役割分担が良い形でできると良い。
<p>伊藤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・岸田総理の異次元の少子化対策はピンとこない。実際にやるのは市町村単位。少しの現金給付と減税で少子化傾向が改善されるとは思えない。 ・それよりも、国の支援を受けて、各行政が実質的に効果のあるものを打ち出していけるかが大事。人口減少を既定路線とする未来ビジョンではいけない。 ・お金がかかるから子どもはいらぬ、という議論には違和感も感じる。家族というユニットを国としてどう考えるかという意識をしっかりとっていく必要がある。 ・歴史的にも各時代、各国による政治が人口に大きな影響を与えてきた。少子化、高齢化など人口構成は変化している。国としての考え方を打ち出してほしい。それを受けて、各市町村がどの程度具体的にメリットのある施策を打ち出していけるかが重要。
<p>井上委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夫婦2人だけで子育てができる体制があれば市のアピールポイントになる。 ・休日出勤の場合に、休日保育のための負担を市が補助する制度があれば良い。 ・2人目出産時に必要な支援を市がしっかりサポートしているとアピールできると良い。

<p>佐原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の子どもが小さい頃は、あまり子育てに参加できておらず家族ともめた時がある。 ・子育てに参加している中で少子化の現状がよく分かった。先生の数や部活の選択肢が減るなど、ただ子どもの数が減るだけではない影響があると感じた。 ・価値観の違いにより、子どもを預ける場所があっても預けられない現状がある。 ・子育て支援の制度も、あることを知らなければ受けられない。 ・経営者の立場としては、小さい子がいる従業員が突発的に休みを取るの辛い。 ・親を当てにしない、夫婦2人で子育てができる環境を基本とする。その場合は、夫婦の時間を確保することが大事。 ・湖西市で、夫婦2人で子育てが安心してできる環境を作ることが大事。 ・賃金が変わらない中、選択肢は増えたが負担は増加している。 ・地域愛の形成に取り組むことで定住につながる。
<p>野村委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市だけでできることは限られている。できないことはできない、助けてほしいと言うべき。 ・湖西市だからできると思うのは、湖西市が子育てを応援する、という強い意志を言い続けること。 ・子育ては迷惑なことではない、夫婦2人だけでできないことは悪いことではない、迷惑をかけても良い、という姿勢を示し続けて、文化を作る。そういう雰囲気のある市ならば、移住定住促進につながる。
<p>大倉委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てはチャンス。生活とお仕事のところにコミュニティが広がる。支援者も増えるし、新しい自分に出会える。 ・子育てが大変という中身は、孤独か、時間がないことか、お金がないことか、考えていくとそれぞれで助けられるものはある。 ・子育て支援の場に行こうと思っているのになぜ行けないのか、足がないのか、気分が悪いのか、どういう状況なのか。 ・名古屋市では保育のプランを専門的に立てる人に支援拠点に来てもらい、毎月相談会をしている。スマホで検索しても個人に合わせた回答は得られないので、専門家に相談してほしい。
<p>野村委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援は縦軸ではなく、横軸でやらないといけない。妊娠・出産直後で拾いきれなかった部分を保育園現場で保育士が見てフォローしている。 ・自分たちで解決できなければ他に誰かが拾い取ってつなげたり、県に相談したり、湖西市は間に浜松市があって県の児童相談所とは距離があるが、現場を救う横軸はお金をかけずに作ることができる。